

令和2年度後期 学群教育改善計画

学群(学部)名	看護学群
学群(学部)長名	高橋 和子

<p>1-①. 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。</p>					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課 題</td> <td>科目運営について、履修者が100名を超える科目では、グループワークやグループワーク後のプレゼンテーション、スキルに関わる個別指導が難しく、効果的な授業展開ができていない科目がある。感染予防対策からも技術演習等を行う科目は、100名を超える人数での実施は困難な状況である。</td> </tr> <tr> <td>理 由</td> <td>コロナ禍のため、感染予防対策を行いながらの授業展開が求められるが、100名を超える人数で、グループワークやスキル修得の演習を行える施設が限られている。</td> </tr> </table>	課 題	科目運営について、履修者が100名を超える科目では、グループワークやグループワーク後のプレゼンテーション、スキルに関わる個別指導が難しく、効果的な授業展開ができていない科目がある。感染予防対策からも技術演習等を行う科目は、100名を超える人数での実施は困難な状況である。	理 由	コロナ禍のため、感染予防対策を行いながらの授業展開が求められるが、100名を超える人数で、グループワークやスキル修得の演習を行える施設が限られている。
課 題	科目運営について、履修者が100名を超える科目では、グループワークやグループワーク後のプレゼンテーション、スキルに関わる個別指導が難しく、効果的な授業展開ができていない科目がある。感染予防対策からも技術演習等を行う科目は、100名を超える人数での実施は困難な状況である。				
理 由	コロナ禍のため、感染予防対策を行いながらの授業展開が求められるが、100名を超える人数で、グループワークやスキル修得の演習を行える施設が限られている。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課 題</td> <td>「継続」 事前・事後学修について、課題提示により自己学習を促すなど工夫をしている科目もあるが、全体的には授業時間以外の学修時間が不足している科目が多い。</td> </tr> <tr> <td>理 由</td> <td>教員側は、事前・事後学修を促す課題の提示や工夫をしているものの、教員が期待した成果に至っていない。</td> </tr> </table>	課 題	「継続」 事前・事後学修について、課題提示により自己学習を促すなど工夫をしている科目もあるが、全体的には授業時間以外の学修時間が不足している科目が多い。	理 由	教員側は、事前・事後学修を促す課題の提示や工夫をしているものの、教員が期待した成果に至っていない。
課 題	「継続」 事前・事後学修について、課題提示により自己学習を促すなど工夫をしている科目もあるが、全体的には授業時間以外の学修時間が不足している科目が多い。				
理 由	教員側は、事前・事後学修を促す課題の提示や工夫をしているものの、教員が期待した成果に至っていない。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課 題</td> <td>「継続」 学生の捉えている到達目標に対する到達度と、教員側が捉えている評価にずれがあり、評価基準の明確化を図り、ルーブリックによる評価方法を確立する必要がある。</td> </tr> <tr> <td>理 由</td> <td>ルーブリックによる評価を確立することで、科目による教員・学生間の目標到達度の認識のずれ等、解消することが必要である。</td> </tr> </table>	課 題	「継続」 学生の捉えている到達目標に対する到達度と、教員側が捉えている評価にずれがあり、評価基準の明確化を図り、ルーブリックによる評価方法を確立する必要がある。	理 由	ルーブリックによる評価を確立することで、科目による教員・学生間の目標到達度の認識のずれ等、解消することが必要である。
課 題	「継続」 学生の捉えている到達目標に対する到達度と、教員側が捉えている評価にずれがあり、評価基準の明確化を図り、ルーブリックによる評価方法を確立する必要がある。				
理 由	ルーブリックによる評価を確立することで、科目による教員・学生間の目標到達度の認識のずれ等、解消することが必要である。				
<p>1-②. 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。</p>					
①	<ul style="list-style-type: none"> ・講義室を分け、クラスサイズを小さくして運用するなど学生数や授業内容にあった講義室の使用を考慮するとともに、期待する学修効果が想定される学修システム等の活用を更に検討する。また、令和4年度から、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の変更により、新カリキュラムによる教育が開始される。演習スペースの拡大等、学修効果の向上が期待できる学修環境を検討する。 				
②	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学修については、引き続き、必要な学修内容を具的に示したり、授業内容に即した課題提示を行ったりして、学修を促す工夫を継続する。また、促しのみならず、主体的な学修の習慣が身に付くよう、繰り返しの学修に適した教材や学習環境を検討する。加えて、FD等を通して、事前・事後学修の時間が確保できている科目における工夫等を共有し、効果的な方策を検討する。 				
③	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、全学年の科目でルーブリックを活用し、到達目標に対する評価の公平性と妥当性を確認する。また、評価基準の明確化を図ることで、ルーブリックの精度を上げる。 				

<p>2-①. 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・Teams を用いて課題が提示されており、講義終了時にメンションされる課題が学習内容の学修と理解の定着に役立っていた。 ・人の一生としての一連の成長発達過程やそれらに影響を及ぼす要因等について、実感をもって理解する機会となるように高齢者との交流会が位置づけていた。 	
<p>2-②. 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・教授会・教員会議や他の学群の会議等で紹介し、情報を共有する。 ・看護学群のFD等を通して、学生の学修意欲の向上につながる支援方法を検討し、学修支援システム等の活用による新たな学修方法を展開につなげる。また、学修環境の整備を図ることで、シミュレーション教育の強化による実践能力の向上を図る。 	